
ポスター発表

[PB] ポスター B

2020年6月5日(金) 09:00 ~ 18:30 ポスター会場(1) (e-poster)

[PB-06] 画像診断管理加算3に対応する医療情報システムの構築 Medical Informatics and Diagnostic Imaging System adapted to the Requirement of National Health Insurance

*中島 崇仁¹、須藤 高行¹、滝沢 牧子²、小松 康宏²、対馬 義人³ (1. 群馬大学医学部附属病院 放射線部、2. 群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部、3. 群馬大学大学院医学系研究科 放射線診断核医学)

*NAKAJIMA TAKAHITO¹, TAKAYUKI SUTO¹, MAKIKO TAKIZAWA², YASUHIRO KOMATSU², YOSHITO TSUSHIMA³ (1. Dept. of Radiology, Gunma University Hospital, 2. Quality and Safety in Healthcare Management Center, Gunma University Hospital, 3. Dept. of Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine, Gunma University Graduate School of Medicine)

画像診断管理加算 3 に対応する医療情報システムの構築

中島 崇仁^{*1}, 須藤 高行¹, 滝沢牧子²,
小松 康宏², 対馬 義人^{1,3}

^{*1} 群馬大学医学部附属病院 放射線部

² 群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

³ 群馬大学大学院医学系研究科 放射線診断核医学

Medical Informatics and Diagnostic Imaging System adapted to the Requirement of National Health Insurance

Takahito Nakajima^{*1}, Takayuki Suto¹, Makiko Takizawa¹,
Yasuhito Komatsu², Yoshito Tsushima^{1,3}

^{*1} Dept. of Radiology, Gunma University Hospital

抄録:

平成 30 年度の保険請求改定で新設された画像診断管理加算 3 には保険点数的な優遇措置が与えられている一方で、病院全体の医療の質や患者へのサービスの向上を目指すための要求項目が定められている。これを達成するためには、運用面で放射線診断医をはじめとする医療従事者に多くの負担を強いることが多い。群馬大学医学部附属病院では、画像管理加算 3 に対応するためのシステム構築について検討を進めると同時に、働き方改革やこれからの新しい病院のあり方に即した医療を提供できるための工夫を凝らしたシステムを構築した。運用面・システム面の両者から進めていくことで、本来の目的である医療の安全・質の向上を目指す試みについて紹介する。

キーワード 画像診断・未読レポート・既読管理システム・PACS・医療安全

1. はじめに

平成 30 年度の保険請求改定により新設された画像診断管理加算 3 には保険点数的な優遇措置が与えられている一方で、その要求項目は高度なものになっている。多くの大学病院などでは運用面に対応していることが多いが、群馬大学医学部附属病院では、運用面・システム面の両者から、1) 放射線診断医の負担を減らす・2) 働き方改革の推進・3) 医療の質・安全の向上、を目指して検討を進めた。

画像診断管理加算 3 の取得には、以下のような施設基準が定められている。

1. 特定機能病院
2. 6 名以上常勤放射線診断医
3. 全ての画像情報の管理に専門医が関与
4. 夜間及び休日の読影体制
5. 検査前の画像診断管理
6. 患者の医療被ばく管理

これらの施設基準に加え、これからの医療安全・

患者サービスの向上の目標に向かうためのベースとなるシステム構築をしたので紹介する。

2. 方法

1) システムの全体像

今回紹介するシステムは、主に(1) PACS・RIS システム (Synapse/F-RIS: 富士フイルムメディカル)・(2) 統合情報提供システム (CITA: 富士フイルムメディカル社)・(3) 被ばく管理システム (Radimetrics: バイエル株式会社)からなる。

(1) PACS・RIS システム

- 読影のための患者情報提供
- 検査前の画像診断管理 (検査指示)
- 術前シミュレーション
- 遠隔画像診断システム

(2) 統合情報提供システム

- 画像診断報告書既読管理
- 部門管理システム
 - 重要レポート管理システム
 - 検査前管理システム

(3) 被ばく管理システム

- 患者線量管理・等価線量シミュレーション

3. 結果

1) 読影のための患者情報提供

読影するために必要な情報は、依頼医からの「依頼内容」だけでなく、電子カルテと CITA とで DWH を介した情報共有により、電子カルテの 2 号用紙などを PACS/レポート端末から参照することが可能になった。

2) 検査指示

F-RIS にて構築した検査指示システムでは、検査前日までに検査担当の放射線性診断医が、様々な患者情報を踏まえて、最適な検査の指示を行える。ダブルチェック機構として、看護師は部門管理システム(CITA Clinical Finder)による検査前管理システムにより、腎機能・アレルギー情報・同意書などの確認が一覧できる。

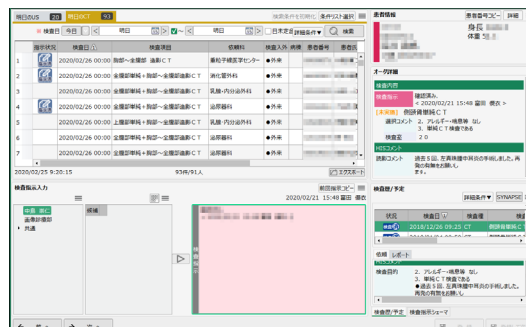


Fig.1 CITA Clinical Finder を使った検査前管理システム

3) 術前シミュレーション

PACS には大容量の VNA が導入されており、全検査で 0.5-1.0mm の thin slice 画像を保存している。院内の電子カルテ全端末で 3D ワークステーション (Vincent: 富士フイルムメディカル) が稼働可能であり、放射線技師への 3D 画像作成依頼を減らす効果があった。

4) 遠隔画像診断システム

病院で用意した遠隔画像診断用のノートPCから直接院内ネットワークに接続できるセキュアな環境を構築し、VMware上の仮想読影端末にRDP経由で接続する。大学の働き方改革の一環として、在宅勤務規定を設けて、在宅でも読影ができるようにした。

[illegible]

Fig.2 重要レポート既読管理システム

5) 画像診断報告書既読管理

昨今の画像診断報告書の伝達ミスによる医療事故に対応して、既読管理システムを導入した。

(1) 検査依頼医による画像診断報告書の確認

検査依頼医はレポート上の確認ボタンを押すことにより、既読の有無を明らかにする。

(2) Star Search プロジェクト

群馬大学医学部附属病院では、依頼医が見逃しては困る画像診断項目にたいして、放射線診断医が「★」印を付ける。

(3) 重要レポート管理システム

「★」印のついた重要レポートについては、医事課と医療の質・安全管理部が、検査後 2 週間を目安に依頼医の確認状況を CITA Clinical Finder で確認し、電子カルテから実際の対応状況を確認する。

6) 被ばく管理システム

令和2年度から始まる医療法対策の一環として、
患者の検査被ばくについて統括的に管理する。

4. 考察

画像診断管理加算 3 は、医療の安全や患者へのサービス向上の面から推し進められるべき内容であるが、運用面だけで対応するには医療従事者に大きな負担が掛かるものである。今回の提案のように、運用面・システム面の両者から進めていくことで、本来の目的である医療の安全・質の向上を目指すことが可能である。

5. 結語

群馬大学医学部附属病院での画像診断管理
加算 3 をきっかけとした医療の安全・質の向上む
けた新しい取り組みについて紹介した。